

仏法領

ぶつぽうりょう

第98号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ

町犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org



「みほとけの声を聞く」

難しい・・・

テーマが難しすぎる(涙)

住職から資料をいただき

何度かよんだけど

日本語なのに理解できなかった(涙)

私の答えはこうだ

「だから、住職がお寺にいる」

「みほとけの声を聞く」とは

一生涯かけて 手をあわせ

答えのないことに問いかけ耳を傾け

自分のこのころに素直に応じる

「みほとけ」だったら

なんとおっしゃるだろうか

住職に聞いてみましょう

(写真・文 大迫光浩)



2017年11月、コロナ以前の
報恩講の光景 →



みほとけの声を聞く

「仏説無量寿経」に

今仏に値うことを得て、復た無量寿仏の声を聞きて
歡喜せざるものなし

とあって、親鸞聖人は声に「みな(名)」とわざわざ読みをつ

けている。

南無阿弥陀仏とほとけの名を称えることは、ほとけの声を

聞くことだという。何者も、えらばず、嫌わず、見捨てず、

必ず仏にするという阿弥陀仏の誓いを聞くことである。南無

阿弥陀仏という名に込められた誓いの願いを聞くことである。

多くの先人の念仏が私の口から出てくる念仏となり、私も仏

の声を聞く。仏の願いが道場・本堂や聞法の集いとなつてい

る。

お釈迦様のみ教えは生きていくということは、必ず死ぬと

いうことである。寿命が先に伸びても歳をとり、病気をして

必ず終わる。終わることを前提にして生きることを始めよう

ということである。個人の命が終わるといふことは、いのち

の本来の世界に帰るといふことであるといふ。

今生きていることしか視野に入らない生き方は、自我心と

欲求に振り回されて、虚しく終わるしかない。平等の願いに

立つことを忘れて、善し悪しの世界で他人のあら探しばかり

をするようになる。

わたしのいのちは同時に全てのいのちと繋がっている。い

のちが本当に満足できるのは、自分だけでなく他のいのちの

満足(自利・利他)が成り立つことだと教えられている。阿

弥陀仏の浄土といふのは、いのちの満足する世界を教えてい

る。

門徒の生活の基本は朝晩仏様(仏壇・お内仏)にお参りし

て、「正信偈」をお勤めし、お念仏申す。煩惱の身をかかえ自

我の心に振り回されている自分をひるがえして阿弥陀様から

呼び掛けられている身であることを確かめて生きていく。それ

が具体的な救いであり、それを往生といふ。

報恩講は一年の区切りとして信心を自ら

に確かめる場である。皆で準備をし、餅で

お華束を作り、お勤めし、お齋(食事)を

いただき聞法する。お坊さんたちがお参り

して、お勤めをし、親鸞聖人の御一代記

『御伝鈔』が朗々と読み上げられる。

これらが浄土真宗教団の具体的な伝統で

ある。



お仏壇に手を合わせて思うこと

YA (北九州市小倉北区)

私は毎朝夫婦でお仏壇にお参りする事が日課である。これは祖母が亡くなった時に、父が仏壇を購入した時から行われる様になったと記憶をしている。若い時は只、「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えるだけであった。

その後、父、妹、母と亡くなるにつれて、亡くなった肉親への思いを込める様になり、子供が生まれると子供の元氣な成長を願い、ある年齢になると会社での安全を願うと言う様にお参り事が増えてきた。最近では子供や孫達家族の幸せを願うばかりとなっている。



勿論、お参りの初めには仏様、先祖様に私達が現在在幸せに過ごせている事への感謝を申し上げている。

以前、勉強会で、浄土真宗ではお仏壇のお参り時にはお願ひ事はしてはいけないと教わったと記憶している。この事を思うと私の朝のお参りは間違っている事になるのかもしれないが、家族の幸せを思うお願ひであり、許して頂ける事ではないだろうか。

私達夫婦のお参りが何時迄続くのか不明ではあるが、私達の後は長男夫婦がお仏壇へのお参りを引き継いでくれるかと思っている。

現在、私の両親の命日・法要、お盆、年末年始時にはお仏壇へのお参りを孫達と一緒にしてくれているからである。

お参りの日々

村上 宣 (念信寺若院)

十一月になり、寒さが堪えるようになりました。皆さまお身体のほどほどうでしょうか。

今年には不思議な天気も多く、十月にもかかわらず、暑い日が続いたかと思えば、突然寒くなり、身体がついていかないという方も多いのではないのでしょうか。



人の身体というものは不思議なもので、日に当たるとそれだけで健康になるらしく、「日光浴」というのも一時期流行しました。

植物においては「光合成」として成長を促し、動物全般にも健康を促進させ精神衛生の健康も保てるということです。私達の生活において太陽の光というのは、とても重要な役割を担っています。常日頃では都合によっては感謝しつつも憎らしくありますが、やはり支えられているのは確かでしょう。

今回の頂いたテーマは「みほとけの声を聴く」。「選ばず、嫌わず、見捨てず」という阿弥陀仏の願ひは、太陽の光のようではないでしょうか。

私たちは自分の都合中心の生き方で、天気や教えも見えてしましますが、そんな私たちの生活の根底には変わらぬ「光」があるように思います。



本堂大屋根修復 会議状況

第13回検討委員会

【10月27日(日)午後2時より】

世話人の居ない門徒さんへのアンケート回収結果の報告と検討

【送付と回収に手間取っています。】

12月末を目途にアンケートを回収すること。

寄付が目額に達しないときは業者と見積額の検討も必要。

支払いには、いずれにしろ借入れを考えずなくてはならない。

コラム

華束



▲本堂の華束の一例



▲お内仏の華束の一例

報恩講や年忌法要でお備えされる餅かざりのことを華束といいます。この華束は供筒に小餅を積み重ねて盛ります。

お寺の本堂では、目をひく大きな華束が備えられますが、お内仏の場合は供筒の上に、2段もしくは3段程度の白餅を備えるといでしょう。

【華束をそなえる行事・祥月命日、年忌法要、中陰、お正月・お盆、お彼岸、報恩講、入仏式など】

*お正月は鏡餅をお備えします。

(九州教区「アフターケア通信より」)

秋彼岸法要

2024年9月28(土)、29日(日)午後

講師 瓜生 崇 先生

(滋賀 玄照寺住職)

なぜナムアミダブツが救いなのか

親鸞聖人の師は法然上人。親鸞聖人は法然上人によりお念仏に出遇った。法然上人も長い間、称名念仏が救いであることに確信がもてなかった。

850年前、法然43歳の時なぜナムアミダブツなのかに対する応えが、善導大師の『観無量寿経』の注釈書にある「彼の仏願に順ずるが故に」であると気づいた。私が仏になるのではない。仏が「ナムアミダブツ」という言葉になって私の所に來る教え、これこそ仏の願ひであると。



9/29秋彼岸法要



9/29秋彼岸法要



9/28秋彼岸法要

報恩講ってなんだろう？

親鸞聖人の命日

親鸞聖人は1262年11月28日に90歳の生涯を終えられました。報恩講は宗祖親鸞聖人のご命日を機縁としてお勤めされる法要です。

お念仏の教えを私たちに遺してください。宗祖や先達のご恩と徳に報じ、謝する仏事です。

起こりと広まり



親鸞聖人は師である法然上人のご命日(25日)に念仏相続の仏事を勤めておられました。聖人亡きあとは門弟たちがその伝統を受け継ぎ、28日に皆で集まって仏事を勤めました。

やがて聖人のひ孫にあたる本願寺三代の覚如上人が三十三回忌をお勤めするにあたって『報恩講私記』を著わして、そこから聖人のご命日の仏事が「報恩講」とよばれるようになりまし

た。第八代蓮如上人の頃になると、宗派を超えてお参りする人が多くなり、全国各地で盛んに勤められるようになりました。

「報恩の仏事」と「追善の仏事」

法然上人は「私が亡くなった後は追善の



仏事ではなく報恩の仏事を行ってほしい」とお言葉を遺されています。「追善の仏事」とは、死者の冥福を祈るものです。一方、「報恩の仏事」は、亡き人の死を通して、一人ひとりがお念仏の教えに出遇う念仏相続の仏事だといわれます。親鸞聖人はこの師の教えに生涯を尽くされました。その遺志は報恩講としてお寺や地域にも受け継がれています。



以上、九州教務所「ご本尊」パンフレットより引用。

真宗の本尊の展開

竹中 智秀

(カッコ)は竹中先生の独り言です。

真宗門徒の伝統は、その家に御本尊を中心とするお内仏を持ち、朝夕の勤行をすることにあり。しかし最近では、門徒といっても、お内仏を持たない、また、勤行のできない門徒が多くなっている。(住職の責任ですね)大事なことは門徒と名の限り、その家に三折本尊があっても、御本尊を持ち、勤行ができるようになることである。みんなも卒業後、どういう生活を始めることになっても、まず、御本尊を持ち、勤行ができるような体制を整えて、その生活を始めてほしい。(なかなか難しいことですが、始めが肝心です)なぜなら、御本尊を中心に始めて、その場が「如来のまします場」となり、その生活が如来・聖人に護られての生活になるからである。

私の出会った門徒の一人にAさんがいます。そのAさんは中学生の孫から「おばあさんは、どうして死なないのか」と顔を合わす度に言われるので、(いじめられているわ

けです)ある時「どうしてそういうのか」と聞いたという。その時、孫は、「学校で先生から「社会へ出た時に、間に合う人間になれ。なれなければ、生きていけない。だから、しっかりと勉強するように」と、いつも言われている、という。しかし、家に帰ってくると、全然間に合っていないおばあさんがいるので、「どうして死なないのか」と聞くのだ、と言った。(我々も直接言われなくても、間接的に言われることがある)その時、Aさんは、その孫に「お前もお内仏に参って、阿弥陀さんに手を合わせて、南無阿弥陀仏と念仏しているだろう。(門徒の家の子供はみんなそうです)その阿弥陀さんがこの私に、「お前もおつてもよい」と言ってくださっている。阿弥陀さんは、「間に合う者も間に合わない者も、みんな一緒に生きていきなさい」と言ってくださっている。だから私はその阿弥陀さんの言われる通りにしている。お前も、学校の先生の言うことだけを聞かないで、阿弥陀さんの言われることを聞くようになればよい。」とAさんは孫に言ったという。(こういうおばあさんがおられる)Aさんにすれば、お内仏の御本尊阿弥陀如来は生きておられるのである。その阿弥陀如来の呼びかけを「南無阿弥陀仏」と念仏しながらAさんは「間に合う者も、間に合わない者も、一緒に生きていきなさい」と聞きとめ、その阿弥陀如来の呼びかけにこたえて助けられながら生きていくのである。

(途中略)

我々は、誰もみな、法性法身(真実)の世界を故郷とし、大地として存在しているのであるが、そのことを忘れて、思い起こせない。そのために、流転している。そのため我々にそのことを知らせようとして、その法性法身の世界そのものが、まず法蔵菩薩となり、選択本願を建て、その選択本願を成就して阿弥陀如来となり、浄土を示し、さらに、南無阿弥陀仏をもって、我々に呼びかけられているのである。

この法性法身の世界といってもそれは、それがどのような存在であれ、存在するのはすべてそのまま撰取不捨して、そこに存在されている世界のことである。それは、現に今、我々自身の上に事実として、成就していることである。その事実を阿弥陀如来は浄土をもって、我々に示し、また、南無阿弥陀仏をもって「我に南無して、わが国に欲生せよ」と呼びかけながら、我々に知らせ、自覚させようとして言われているのである。

(途中略)

我々は、自我を中心としているために、いつでも、今、ここに存在している自分自身をも、他者をも、そのまま受け止められない。そのため我々の生活の現場は、地獄となつていく。しかし、そういう我々も、誰も、皆が、法性法身の世界を故郷とし、大地として、そのまま撰取不捨されて存在していることである。そういう世界が現に今、事実としてある。

門徒はその家にお内仏の御本尊を持ち、朝夕の勤行をしながら、そのことを日々聞き、確かめ、助けられて、生きてきているのである。



調べ物をしていて、光琳寺さんのホームページで見つけた竹中智秀先生の講義録です。

今回、寺報担当者には中略をしないでそのまま送ったので、難しいと不評でした。大切なことを直裁に語られているので、掲載させてもらいました。

竹中先生は大谷派の僧侶養成の学校である大谷専修学院の院長をなさっていた方です。

御正忌・報恩講(案内)



皆様には、時下ますますご清祥のことと存じます。はや、年の瀬も近くなり、報恩講の季節になりました。報恩講は親鸞聖人の「命日を」縁とする法座で、真宗門徒が最も大切にしてきた法要です。
コロナ禍を配慮して左記の日程で厳修させていただきますので、ご参詣聴聞くださいますようお願い申し上げます。

記

Table with 3 columns: 日時 (Date/Time), 午後一時半 (Afternoon 1:30), 地区お参り予定 (Area for visit). Rows include dates from Nov 21 to 23, and locations like 犀川谷地区 and 上高屋地区.

※その他とは、豊津・築上・行橋・苅田・田川・北九州等です。

講師

舟川 宏顕 先生 二十一、二十二日

両徳寺 前住職

村上 匡一 二十三日

念信寺 住職

コロナ対策として

- マスクの着用をお願いします。
お茶は各自ご持参ください。
法座は午後のみ、お斎はありません。
地区指定の日は一応の目安です。
本堂の椅子は余裕をもって配置します。
体調の不安がある場合はご遠慮ください。

二〇二四年十一月 みやこ町犀川上高屋

妙見山 念信寺

法座予定

二〇二五年

●春彼岸法要

三月二十九日(土)、三十日(日)

北嶋文雄・筑前町光蓮寺住職

●皆作・永代経法要

七月五日(土)、六日(日)

舟川智也・行橋市両徳寺住職

●秋彼岸法要

九月二十七日(土)、二十八日(日)

瓜生 崇・滋賀 玄照寺住職
(各)講師の敬称略

●報恩講

十一月二十一(金)〜二十三(日)

講師 未定

お寺の活動



9/27京都組門徒会研修会



10/16京都組女性総括



10/5育成員講習会



10/29犀川同朋会



10/20緒方家上げ仏事

報恩講 poster with large characters and event details for December 13-16.

参加者募集!

●四日市別院報恩講 団体参拝
12月14日(土) 午前10時半よりバス団体参拝
参加費四千元(お斎・お取持 含む)
申込 12月1日までに



10/29臨時組会



10/24推進員研修会・総会



永代管理 樹木葬

永代管理をする樹木葬を計画しています。家が継承する状況なので、お寺が管理して、親も次世代の人々も安心していただける場所を作りたいと考えています。



念信寺納骨堂

大きい壇は、申込みがほぼ一杯になりました。写真の小さい壇はまだ空きがあります。(12万円から、5年間の管理費込み)

あとがき

今回のテーマ「仏の声を聞く」は、原稿をお願いしている方には難しいと言われた。スマセン。どの辺に手掛かりを見つけていいのか、日常にない領域の言葉なのだろう。

若院家はなんとか、書いてきた。(笑) 私の文章や言葉は難しいと言われる。さもありなんである。

言葉の持っている領域があって、専門用語、宗教的用語は日常生活から離れている。人に分かりづらいた。要するに本人もよく分かっていないのだ。教えと門徒さんの具体的な生きる現場をつなぐ通路ができていないというのは、住職として申し訳ないというか、ふがいないなあと感じている。

今回は竹中智秀先生の言葉に触れて、まず人に会うことの大切さ、自分からは決して出せないもの、ホンモノに触れる大切さを痛感している。

